

充実期研修

- 令和3年度より青森県教育委員会と共催。
- 校長に推薦された30代後半から40代の公立学校教諭（校種を問わない）対象。
- 4月～11月実施。集合研修2日+オンラインで多忙なミドルリーダー世代が無理なく受講。
- 教職大学院教員のコンサルテーションを受けながら、勤務校の改善に繋がるアクション・プランを立案・実施。最新の教育事情も学ぶ。

受講者の声

・同じような悩みを持つ先生方との本音の協議、大学の先生方による実践的アドバイス、どれをとっても有意義な学びの機会になりました。

・自身に足りないものや努力すべき点、学校組織の課題、それをどうすべきかについて、自覚があった。そこに行動する勇気ときっかけを与えていただいた。

・数か月にわたる研修だったが、その分、じっくりとひとりりで考えたり、同僚と相談したりする時間が確保できてよかった。

・校種を超えて意見交換をできたことが有益であった。自分で思いつかなかったり、成果が出ていないと感じていても、意見交換することで視点を変えることができた。

・Action Planを通して、「チーム」で取り組むことで生まれる効果の大きさを実感できた。

・客観的に学校全体をとらえ、「この課題に対しては、こういふ方法・手段もあるのではないか」と冷静に考えられるようになった。



HIROSAKI UNIVERSITY

【弘前大学教職大学院・NITSコラボ研修】

令和4年度 充実期研修講座

組織で解決する力を伸ばす
チーム学校を支えるスクールリーダーのために

- 育成指標において充実期教員に求められる「マネジメント力」及び「指導力」の伸長を図ることを目的とする講座です。
- 対象は、学校長の推薦を得た主として30代後半～40代の県内中学校教員（教諭・養護教諭等）です。校種は問いません。受講を希望される方は、所属校の管理職にご相談ください。受講後、県教育委員会の研修履歴に記録されます。
- 教職大学院教員のコンサルテーションを受けながら、実際に勤務校においてアクション・プランに取り組みます。多忙な充実期の教員に配慮して、オンラインと集合研修（2日）を組み合わせて実施します。

日程及び内容

3月23日～31日	受講希望者の申込（申し込み方法は下記参照）
4月初旬	受講決定通知書とオンデマンドの案内を送付
4月中旬～5月上旬	オンデマンドによるガイダンスと講義 1時間30分 ●ガイダンス ●講義「令和の日本型教育とLearning Compass 2030」 研修動画視聴30分+ワーク1時間30分程度 （いずれも勤務校で各自の都合に合わせて実施）
5月10日（火） 15:00～16:00	受講生・教職大学院教員顔合わせ（オンライン）
次の日程から選択	5月17日（火） 15:00～16:40 5月19日（木） 15:00～16:40 5月24日（火） 10:45～12:25
次の日程から選択	6月16日（木） 15:00～16:40 6月21日（火） 10:45～12:25 7月5日（火） 15:00～16:40
7月26日（火） 9:30～16:00 弘前大学	第1回集合研修（対面） ●講義「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」 ●講義「子どもや家庭の背景と外部連携のために」 ●アクション・プランの発表と協議
8月下旬～11月中旬	各勤務校にてアクション・プランの実践（各自）
自由参加 ※	8月～9月上旬 各1時間30分 実践事例を踏まえたコンサルテーション（オンライン） 事例提供：昨年度受講生、教職大学院修了生等
10月中 2時間程度（グループごと）に日程調整する	教職大学院教員によるコンサルテーション（対面又はオンライン）
11月24日（木） 9:30～16:00 弘前大学	第2回集合研修（対面） ●アクション・プランの実施報告と協議 ●協議及び講義 「ミドルリーダーとして組織を動かすときに重要なこと」 「組織の協働とリーダーシップを考える」 ●省察「研修とおした自身の変化とこれからの5年」

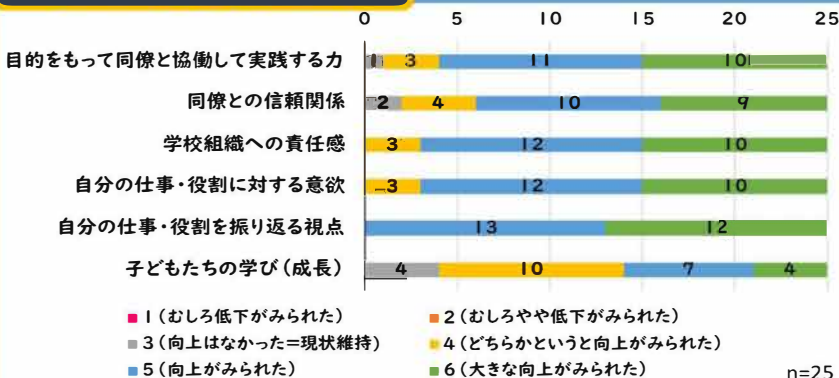
※自由参加については、参加しないことも、複数選択することもできます。
※参加無料です。集合研修の経費は当方が負担いたしました。

NITS・弘前大学教大学院コラボ研修充実期研修講座

アクションプランの内容例

- 1日15分～20分程度の校内ICT実践講座研修会を実施。活動場面に応じたアプリの紹介・演習を行い、授業での活用機会を増やす。（中学校）
- 教材研究や生徒指導の事務作業の時間短縮のため、研究授業等で学年主任と研修部、教務部、生徒指導部がタイアップし、授業力や学級経営力を高めるためのOJTの機会を設け、組織的に人材を育成する。（小学校）
- 多忙化解消に向け、新しい研究授業と合評会のあり方を考える。体験型探究活動8時間分を授業の目的を明示して編集し、共有ネット
- ワークで一定期間視聴して、いつでもだれでも意見を投稿できるようにする。（高等学校）
- 小中学校の担任5人で児童生徒の見立てを共有するケース会議を実施。1回につき1人の子どもを1週間観察、会議では付箋を活用して見立てを共有、支援策を協議する。記録は全職員に周知。（中学校）
- 生徒の実態に合わせていじめアンケートを改善。職員アンケートや教育相談担当との協議を踏まえ、各学年会で改善を検討し実施。（特別支援学校）
- 教師のプロフィール表を作成し、一人一人のこれまでの経験や得意分野、専門性が高い分野などを共有。（特別支援学校）

受講者アンケートより



所属校校長アンケートより

充実期の教諭の資質・能力の向上に効果が
あったか（6段階）

